



秋田県立支援学校天王みどり学園 教育プラン

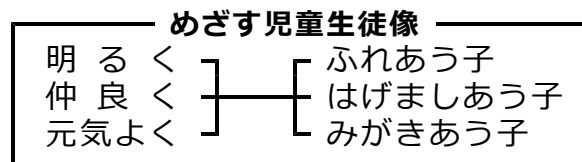
I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

- (1) 平成15年全校児童生徒46名で開校し、16年目を迎えた。児童生徒数は年々増加し、平成31年度は児童生徒数が132名となった。近年は中学校進学時に転入する生徒が増えたこともあり、他の特別支援学校に比べ、中学部生徒の割合が高くなっている。全員が家庭から通学しており、その居住地は、潟上市が39%、秋田市北部が32%、男鹿市が18%を占め、その他、五城目町、井川町、八郎潟町、大潟村となっている。今後も同様の割合で推移すると予想され、男鹿潟上南秋地区に加え秋田市との連携も重要となる。
- (2) 知的障害を主な対象としているが、肢体不自由の児童生徒や重度・重複障害の児童生徒も在籍しており、理学療法士や作業療法士等専門家と連携して教員の専門性の向上を図り、自立活動や医療的ケアのなお一層の充実が必要である。
- (3) 男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会の事務局を担当しており、各市町村の関係機関と連携し、地域における特別支援教育の推進を図っている。センター的機能や教育専門監派遣等により、教育相談や障害理解授業、ボランティア養成等をはじめとした地域の幼保、小中高校等への支援の充実が今後も一層重要となる。
- (4) 近隣の幼保、小中高校とは、開校以来長年にわたって交流及び共同学習を継続してきており、今後もそれぞれの段階に応じた学校間交流や居住地校交流を推進していく。
- (5) 本校主催の「みどりっこ夏まつり」は、毎年7月下旬に開催し、約1,000人の来場者がある。これまで10年間継続したことで地域の祭りとして定着してきており、学校と地域の協同の機会であるとともに、本校の理解を図る機会として今後も継続していく。
- (6) 県総合教育センターと隣接する利点を生かし、開校以来様々な連携をしている。現在、総合教育センターの研修講座では、全ての校種において特別支援教育に関する内容の講座を開設している。県内教員の実地研修の場としての役割を果たしながら、本校の授業力の向上とインクルーシブ教育システム構築を目指した県内教員に対する特別支援教育の理解を推進していく。

II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

教育目標

地域の一員として、一人一人が輝き、進んで社会参加できる児童生徒の育成



- 地域の教育資源を活用し、地域と協同で教育活動を推進する学校
- 総合教育センターと連携し、県内外に「授業」を提案できる学校

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

1 豊かな教育のある学校の実現

- (1) 個々の教育的ニーズに対応した個別の指導計画の作成と「キャリア教育全体計画」を基にした小学部、中学部、高等部を一貫した教育活動の実践
- (2) 地域と連携した職業教育の充実と希望する進路の実現と定着
 - ・生徒の能力伸長と事業所等の理解促進
 - ・地域の資源を活用した作業学習製品の開発
 - ・地場産業を中心とした実習受入事業所の拡大
 - 【一般就労を希望する生徒の就職率 100%】
- (3) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自立と社会参加を目指した教育課程の編成と授業改善
- (4) 毎年度の公開授業研究会の開催及び地域の幼保、小中高校からの参加者の拡大
【公開研究会への幼保、認定こども園、小中高教員の参加者数 50人】
- (5) 生涯学習の充実を目指したスポーツ・文化芸術活動の充実
 - ・地域の人材を活用した部活動及び美術、音楽活動等の充実
 - 【サッカー、バスケットボール、ネオホッケーの県大会での優勝】
- (6) 家庭や地域との連携強化及び教育実践やその成果の保護者や地域への積極的な発信

2 豊かな地域生活への支援

- (1) 地域における学習の推進
 - ・みどりっこ夏まつりの開催
 - ・地域行事への参加や地域での販売活動（みどりフェアの開催）
 - ・地域貢献活動（幼稚園・保育所や老人施設、町内会館、駅等の清掃）
- (2) 地域とつながる「交流及び共同学習」の推進
 - ・特色ある学校間交流（小学校、中学校、高等学校）
 - ・居住地校交流（小学部、中学部）
 - 【小学部児童の実施率 H29 67%→H34 75%】
 - 【中学部生徒の実施率 ~H34 30%】 ※希望者全員の実施
- (3) 地域における障害者理解に関する取組の充実
 - ・ボランティア養成講座の実施
 - 【受講者数 H24~29 のべ1,200人 H30~34 毎年150人 H24~34のべ2,000人】
 - ・小・中学校、高等学校における障害理解授業の実施
 - 【地域の学校（小中高）における障害理解授業実施率 H29 28%→H34 70%】
- (4) 地域の様々な行事への参加の促進
【児童生徒の地域行事への参加率 ~H34 50%】

3 児童生徒の安全安心と健康な生活の確立

- (1) 危機管理マニュアル等の再点検と学校における危機管理能力の向上
- (2) 保護者や地域、関係機関と連携した安全教育、防災教育の充実
【地域との合同避難訓練 年1回実施 地域住民等の参加者数 ~H34 50人】
- (3) 医療的ケア、重度重複障害の指導、生徒指導、自立活動に関する職員研修の実施と資質の向上【教員の各研修の受講率 100%】

4 総合教育センターとの連携の推進

- (1) 研修講座の受講やセンター指導主事からの指導、共同研究等による教員の資質向上
【年に1回以上研修講座を受講する本校教員 100%】
- (2) 児童生徒の教育活動の場としての活用推進
 - ・センターを活用した学習活動の実践
 - 〈学年による生活単元学習、作業学習（喫茶や販売活動）〉
- (3) 実地研修の場としての役割を担うと共に、研修員や研修受講者等の学校参観の推進
【授業参観したことがある県内の教職員 ~H34 100%】